

## 日韓の歴史教育における韓国併合の扱いについて —侵略と併合の語感に関して—

小塩 紬可† 西口 純代‡

小樽商科大学商学部社会情報学科 4 年† 小樽商科大学言語センター‡

### 要旨

日本では韓国‘併合’と教育されているが、韓国では日本に‘侵略’されたと教育されていた過去がある。このような単語の使い方によって読み手が受ける印象に影響を与えていた可能性があると考えられる。言語の成り立ちが似ているがゆえに翻訳された結果をそのまま読みがちだが、そもそも単語がもつ意味が違うかも知れない。反対に単語のもつ意味が同じであったとしたら、両者は同じ出来事について異なる説明で教育していたことになる。現時点で両国の教科書記述は歩み寄りを見せつつあるが、過去と現在における韓国併合に関する教育体制と、侵略/併合の語感について研究する。

### 本文

日本では韓国「併合」と教育されていますが、韓国では日本に「侵略」されたと教育されていた、と言われていました。このような単語の使い方によって読み手が受ける印象には、少なからず影響を与えていた可能性があると考えています。日本語と韓国語は言語の成り立ちが似ているがゆえに、翻訳された結果をそのまま読むことができてしまいますが、そもそも同じ漢字を使った言葉でも、単語がもつ意味が違う、ということもあり得ます。反対に単語のもつ意味が同じであったとしたら、日本と韓国は同じ出来事について異なる言葉で説明して教育していたことになってしまいます。今回は、侵略と併合のもつ意味と、教科書における言葉選びの大切さについて記していきたいと思えます。

まず、日本語の国語辞典で意味をしらべてみると、「併合」とは『①いくつかのものを1つに

まとめること。合併。②国際法上、国家が他の国家の領域の全てを自国のものとする。』と書いてあります。次に「侵略」とは『ある国が他国の主権・領土・政治的独立を侵すために武力を行使すること。』と書いてあります。併合の②の意味と侵略は近いように感じますが、併合という言葉を見た日本語話者には①の意味も脳裏を掠めるので、侵略よりも併合の方が加害者感が薄く感じられることが多いはずで

次に、韓国語の国語辞典で意味を調べてみると、「병합 (併合)」は합병 (合併) の項目にとばされており、합병 (合併) とは『 둘이상의국가나기관등사물을하나로합치는것. 병합. (二つ以上の国や機関など、物事を一つにまとめること。合併。)』と書いてあります。また、「침략 (侵略)」とは「(남의나라를) 침범하여땅을 빼앗는 것. ((他人の国を) 占領して土地を奪うこと。)」と書いています。なお、公平性を保つため、韓国語の日本語訳は翻訳ソフト DeepL の結果を用いております。韓国語の日本語訳を見ると、併合の方の意味が複数のものを一つにまとめるとしか記載がないため、日本語と比べ、より明白に侵略の方が攻撃力が強く感じられるはずで

2015 年、アメリカのテキサス州で、15 歳の少年が、1500 年代から 1800 年代に連れてこられたアフリカの‘slaves (奴隷)’が教科書には‘workers (労働者)’という言葉で説明されていると気づき話題になったということがありました。少年の母 Dr. Roni Leigh Dean Burren は当時、ヒューストン大学の言語芸術プログラム博士課程の候補者であり、微妙な言語の力と危険性について考えることに時間を費やしてきたので、すぐに息子から送られてきた写真を共有し『This is erasure, this is revisionist history — retelling the history however the winners would like it told. (これは消去であり、歴史修正主義であり、勝者が望むように歴史を語り直すことである。)]』とコメン

About the Treatment of Invasion/Annexation of South Korea in the History Education of Japan and South Korea - Regarding the Sense of Invasion and Annexation -

† Tsumuka Koshio: Department of Information and Management Science, Faculty of Commerce, Otaru University of Commerce

‡ Sumiyo Nishiguchi: Center for Language Studies, Otaru University of Commerce

トした。これについて小塩が感じたことは、「奴隷」と「労働者」どちらが加害者感があるかということです。あなたがアメリカ人学生だとして、先生から「アフリカの人を労働者にしました」というのと「アフリカの人を奴隷にしました」といわれるのでは思うことが違うという人がいるのではないのでしょうか。Worker を辞書で引いてみると『someone who works in particular job or in a particular way(特定の仕事や特定の方法で働いている人)』となり、slave は『a person who is legally owned by someone else and has to work for that person(他の誰かによって法的に所有され、その人のために働かなければならない人)』となっています。両方とも、想像できる内容は同じ「働いている人間」の様子であっても、実際の背景や意味合いは異なるということがわかります。

言い方を選ばなければ、「白人は黒人を労働者化した」というよりも「白人は黒人を奴隷化した」と言われた方が、白人は黒人に悪いことをしたんだと気づくことができそうです。シンデレラの継母はシンデレラをほとんど奴隷のように扱っていましたが、もしも他人に見られた時、使用人なんだと言えば、その他人もあまり可哀想だとは感じないはずです。使用人だと言えば、不当にいはたらかされているのではなく、しっかりと給料をもらっているのだろうと考えることもできます。学校というとても公式的な場所で起こりうる出来事であるために、おかしいと気づくことが難しくなる。

日韓の間においても同じことが起きてもおかしくないと考えています。この話題について小塩が初めて調べたのは2018年でしたが、当時、日本では韓国を併合したと教えられるけれども、韓国では日本に侵略されたと教えられるという話を聞いたことがありました。今年度の教科書記述に関しては、日韓両国のものを調べる予定でしたが、韓国の正規の教科書を入手することができず、日本国内でどのように記述されているかの調査になってしまったことが残念です。

結論から申し上げますと、2023年度札幌市で入手できた小中学校の歴史の教科書によると、韓国併合という熟語はそのまま用いている一方で、侵略とは書いていませんでしたが、植民地化していたとはっきり記載しており、当時の韓国民に悲しい思いをさせたと記述されていました。

このように、言葉のもつ微妙な意味の違いによって、読み手に与える感想は異なってきます。世界で起きる国同士の歴史をめぐる論争は、こう言った言葉の操作によって、より一層大きく

なる可能性を秘めています。大切な局面では適切な言葉を用いる意志を持つこと、書かれている言葉が本当に正しいか考えることができること、この2つを気にするだけでも、歴史の認識や他の様々な問題の軋轢は解消されるかもしれません。

### 謝辞

本論文の執筆に際し、Karl G. Trautman 博士の有益なコメントに感謝する。

### 参考文献

- 小塩紬可訳『豊臣秀吉』（原著：イ・ゲファン）未刊
- Koshio, Tsumuka (2020) *The Differences of Historical Educations Between Korea and Japan, High School Graduation Research Paper.*